



SOFIX (土壌肥沃度指標) - 畑

依頼日：2026/06/15

資料番号：T1128(15686)

判定：(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名：A (梅小路公園 2023年～手入れ) (一般社団法人 DESIGN KYOTO 様)

実測値および評価

生物性に関する項目 (物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≧6.0	5.6	↓
◆アンモニア酸化活性	(点)	≧41	55	○
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≧70	100	○
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧38	67	○
◆リン循環活性評価値	(点)	30 ~ 70	12	↓
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≧25,000	40,120	○
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧1,500	2,684	○
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧1,300	873	↓
◆全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	2,500 ~ 10,000	3,497	○
◆C/N比		10 ~ 20	15	○
◆C/P比		8 ~ 20	46	↑

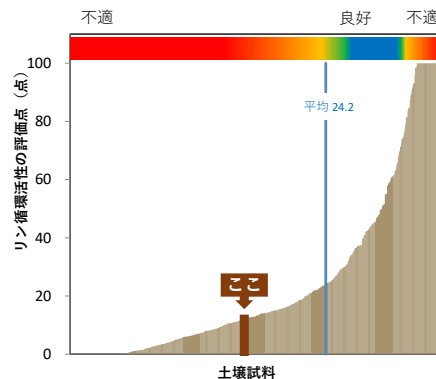
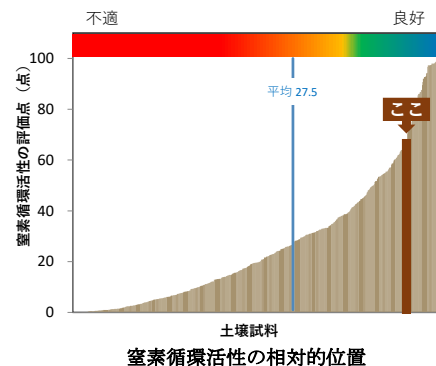
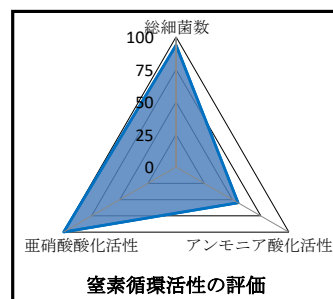
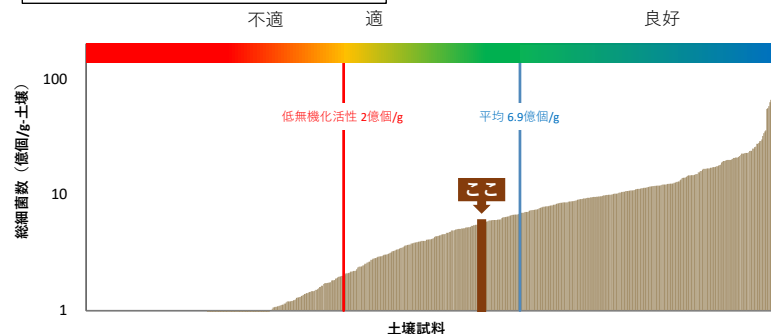
化学性および物理性に関する項目

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
●硝酸態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	10	○
●アンモニア態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	5	↓
●可給態リン酸				
・P ₂ O ₅ 換算(乾燥換算)	(mg/kg)		297	
・P ₂ O ₅ 換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	209	○
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		91	
●交換性カリウム				
・K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		358	
・K ₂ O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	252	○
・K(現状で水分を含む)	(mg/kg)		209	
●pH		5.5 ~ 6.5	6.9	↑
●EC	(dS/m)	0.2 ~ 1.2	0.08	↓
○含水率	(%)	≧20	30	○
○定常含水率	(%)	≧20	37	○
○最大保水容量	(ml/kg)	≧1,000	1,074	○

●化学性に関する項目、○物理性に関する項目

基準更新：2024年10月

データベースに基づいた評価





SOFIX分析に基づくパターン判定一畑

評価

試料名：A（梅小路公園 2023年～手入れ）
（一般社団法人 DESIGN KYOTO 様）

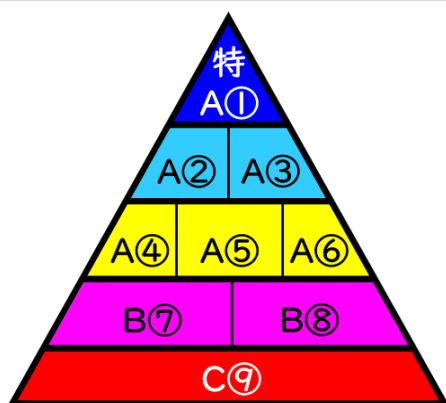
表1. 土壌肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	5.6		≧2.0	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	40,120		≧12,000	
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	2,684		≧1,000	
◆窒素循環活性評価値	(点)	67		≧25	
◆リン循環活性評価値	(点)	12	<20		
◆C/N比	-	15		8~27	

判定

評価 ⇒ A③

基本的に良好な土壌環境であるが、
リン循環が適正でない。



原因

- ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い、あるいは少ない。
- ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。
- ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。
- ・pHが適正でない。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください（有償となります）。

表2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	2,684		≧1,000	
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	873	<1,000		
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	3,497		1500~12000	



SOFIX (土壌肥沃度指標)－畑

依頼日：2026/06/15

資料番号：T1129(15687)

判定：(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名：B (梅小路公園 2025年～手入れ) (一般社団法人 DESIGN KYOTO 様)

実測値および評価

生物性に関する項目 (物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≧6.0	6.2	○
◆アンモニア酸化活性	(点)	≧41	55	○
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≧70	49	↓
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧38	43	○
◆リン循環活性評価値	(点)	30～70	6	↓
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≧25,000	28,530	○
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧1,500	1,684	○
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧1,300	801	↓
◆全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	2,500～10,000	5,085	○
◆C/N比		10～20	17	○
◆C/P比		8～20	36	↑

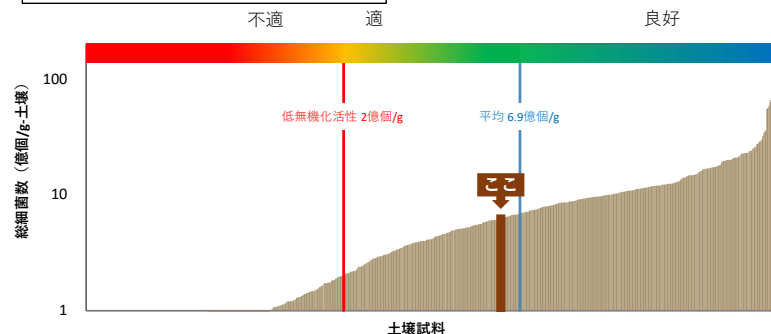
化学性および物理性に関する項目

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
●硝酸態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	0	↓
●アンモニア態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	2	↓
●可給態リン酸				
・P ₂ O ₅ 換算(乾燥換算)	(mg/kg)		266	
・P ₂ O ₅ 換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	208	○
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		91	
●交換性カリウム				
・K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		504	
・K ₂ O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	394	○
・K(現状で水分を含む)	(mg/kg)		327	
●pH		5.5～6.5	7.2	↑
●EC	(dS/m)	0.2～1.2	0.05	↓
○含水率	(%)	≧20	22	○
○定常含水率	(%)	≧20	31	○
○最大保水容量	(ml/kg)	≧1,000	848	↓

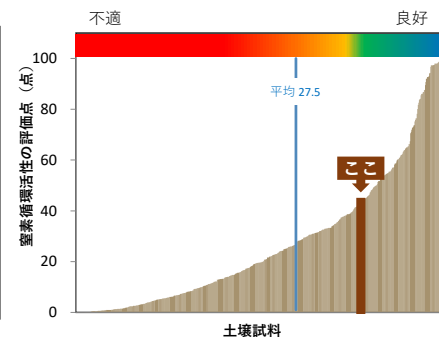
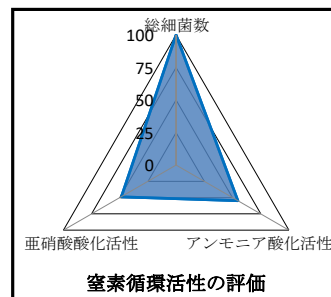
●化学性に関する項目、○物理性に関する項目

基準更新：2024年10月

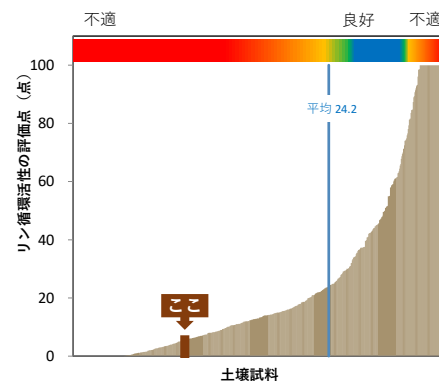
データベースに基づいた評価



総細菌数の相対的位置



窒素循環活性の相対的位置



リン循環活性の相対的位置



SOFIX分析に基づくパターン判定一畑

評価

試料名：B（梅小路公園 2025年～手入れ）
（一般社団法人 DESIGN KYOTO 様）

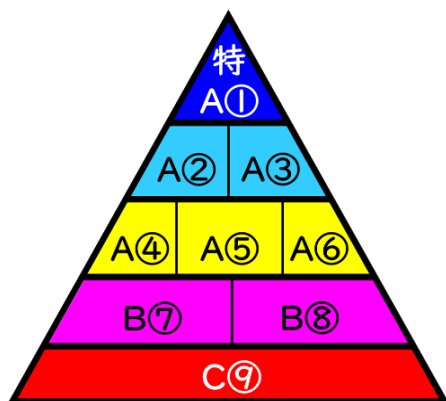
表1. 土壌肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	6.2		≧2.0	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	28,530		≧12,000	
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,684		≧1,000	
◆窒素循環活性評価値	(点)	43		≧25	
◆リン循環活性評価値	(点)	6	<20		
◆C/N比	-	17		8~27	

判定

評価 ⇒ A③

基本的に良好な土壌環境であるが、
リン循環が適正でない。



原因

- ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い、あるいは少ない。
- ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。
- ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。
- ・pHが適正でない。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください（有償となります）。

表2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,684		≧1,000	
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	801	<1,000		
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	5,085		1500~12000	



SOFIX (土壌肥沃度指標) - 畑

依頼日: 2026/06/15

資料番号: T1130(15688)

判定: (一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名: C (梅小路公園 未手入れ) (一般社団法人 DESIGN KYOTO 様)

実測値および評価

生物性に関する項目 (物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≧6.0	2.4	↓
◆アンモニア酸化活性	(点)	≧41	44	○
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≧70	18	↓
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧38	11	↓
◆リン循環活性評価値	(点)	30 ~ 70	3	↓
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≧25,000	7,327	↓
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧1,500	852	↓
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧1,300	849	↓
◆全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	2,500 ~ 10,000	6,466	○
◆C/N比		10 ~ 20	9	↓
◆C/P比		8 ~ 20	9	○

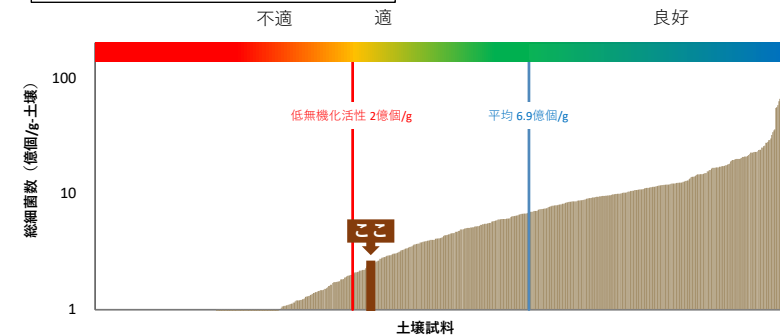
化学性および物理性に関する項目

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
●硝酸態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	0	↓
●アンモニア態窒素(乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	0	↓
●可給態リン酸				
・P ₂ O ₅ 換算(乾燥換算)	(mg/kg)		316	
・P ₂ O ₅ 換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	287	○
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		125	
●交換性カリウム				
・K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		291	
・K ₂ O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	265	○
・K(現状で水分を含む)	(mg/kg)		220	
●pH		5.5 ~ 6.5	6.9	↑
●EC	(dS/m)	0.2 ~ 1.2	0.05	↓
○含水率	(%)	≧20	9	↓
○定常含水率	(%)	≧20	24	○
○最大保水容量	(ml/kg)	≧1,000	538	↓

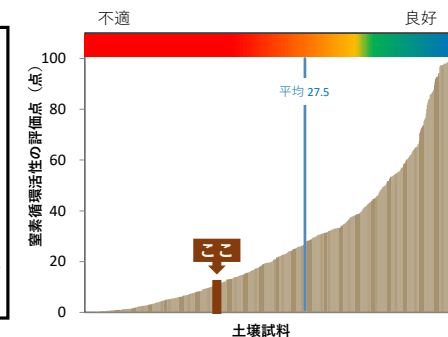
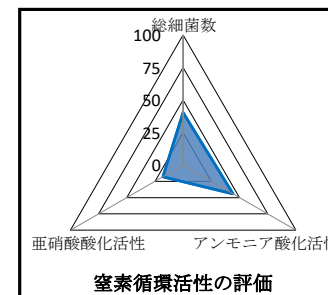
●化学性に関する項目、○物理性に関する項目

基準更新: 2024年10月

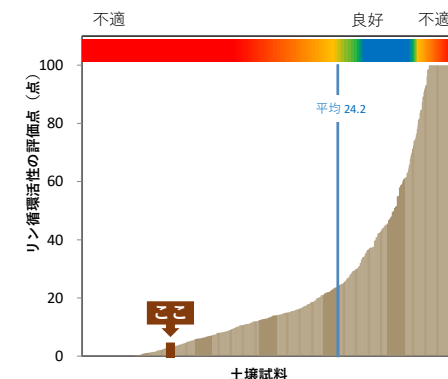
データベースに基づいた評価



総細菌数の相対的位置



窒素循環活性の相対的位置



リン循環活性の相対的位置



SOFIX分析に基づくパターン判定－畑

評価

試料名：C（梅小路公園 未手入れ）
（一般社団法人 DESIGN KYOTO 様）

表1. 土壌肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	2.4		≧2.0	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	7,327	<12,000		
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	852	<1,000		
◆窒素循環活性評価値	(点)	11	<25		
◆リン循環活性評価値	(点)	3	<20		
◆C/N比	-	9		8~27	

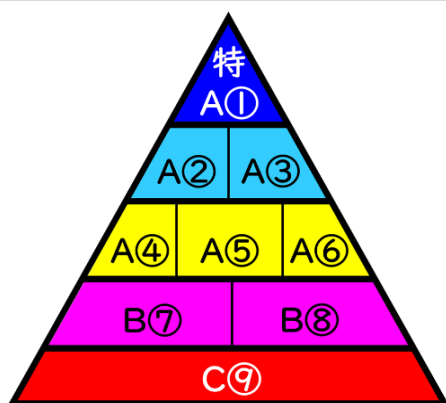
判定

評価 ⇒ A⑥

総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向である。

原因

・化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。



土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください（有償となります）。

表2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	852	<1,000		
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	849	<1,000		
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	6,466		1500~12000	

解 説

(判定基準)

SOFIX（土壌肥沃度指標）に基づく判定基準(畑)を以下にお示しします。

表3. 土壌肥沃度判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値 (畑)		高い
◆総細菌数	(億個/g)	<2.0	≥ 2.0		
◆全炭素 [TC]	(mg/kg)	<12,000	$\geq 12,000$		
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	$\geq 1,000$		
◆窒素循環活性評価値	(点)	<25	≥ 25		
◆リン循環活性評価値	(点)	<20	20	～ 80	>80
◆C/N比	-	<8	8	～ 27	>27

※総細菌数・全炭素・全窒素・窒素循環活性評価値は基準値以上が望ましい。

※リン循環およびC/Nは、基準値以上の場合でも改善が必要である。

表4. 植物成長に影響する項目の判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値 (畑)		高い
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	$\geq 1,000$		
◆全リン [TP (P)]	(mg/kg)	<1,000	1,000	～ 8,000	>8,000
◆全カリウム [TK (K)]	(mg/kg)	<1,500	1,500	～ 12,000	>12,000

※TPおよびTKは、基準値を超えた（高い）場合でも改善が必要である。

日本の畑の土壌は、この基準に照らして、大まかに9つのパターンに分類されます。パターン判定では、ご依頼いただいた土壌のSOFIX分析データに基づいて、どのパターンに該当するかをお示ししています。(表5)

表5. 9パターン分類

パターン	判 定	原因の可能性
1 特A①	良好な有機土壌環境である。	・非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。
2 A②	基本的に良好な土壌環境であるが、有機物がやや蓄積傾向でバランスが悪い。	・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比を10～25の範囲に改善することが重要である。
3 A③	基本的に良好な土壌環境であるが、リン循環が適正でない。	・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い、あるいは少ない。 ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。 ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。 ・pHが適正でない。
4 A④	全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、物質循環活性が不適正である。	・微生物の働きが悪い環境にある。 ・総細菌数は十分だが、全炭素量(TC)・全窒素量(TN)が少ない、またはそれらのバランスが悪い。 ・pHが低い。 ・水はけが悪い。 ・ミネラルの過不足等がある。
5 A⑤	全炭素量(TC)は十分だが、全窒素量(TN)が不足傾向である。	・農産物による窒素の消費、または雨水などによる流出が考えられる。
6 A⑥	総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向である。	・化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。
7 B⑦	総細菌数が少なく、循環系が悪い傾向である。	・化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる ・化学肥料の多用や連作の可能性が考えられる。
8 B⑧	有機物量は十分だが、総細菌数が少ない傾向である。	・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)のバランスが悪い。 ・耕耘が十分に行われていない。 ・土壌燻蒸材等の農薬が残留している可能性がある。
9 C⑨	総細菌数が検出限界以下 (n.d. not detected) 6.6×10^6 cells/g 以下である。	・総細菌数がn.d.であるため、精密診断を推奨する。

※1 「土壌づくりのサイエンス」 誠文堂新光社 P12参照 ※2 微生物は細菌を示している。